

## 修士論文発表会

平成21年度農学研究科応用生物科学専攻修士学位論文発表会が、2月9・10日にW106教室にて開催されました。畜産資源学分野は、今年も2日目の最終組で出場、木村(知)君と児嶋君が畜資伝統のスーツ姿で有終の美を飾りました。

木村君の修論テーマは、「核酸添加が粗飼料給与および濃厚飼料多給条件下に



おける*in vitro*レーメン発酵に及ぼす影響」、児嶋君のテーマは、「GPSとGISを用いた耕作放棄地放牧牛のエネルギー消費量推定と行動圏解析」でした。

発表の途中で、言葉を忘れたのか一瞬しどろもどろになったり、質疑応答で質問内容が聞こえなかったり、というプチ・ハプニングはありましたが、二人とも堂々としていて、さすがの貫禄でした。スライドもわかりやすく、見学に来たM1やB4の皆さんには、プレゼンテーションのいいお手本になりましたね。今後の研究にも期待のかかる質問も出ていました。あ、それから発表中のフラッシュ撮影は控えましょうね(^\_^;)。

さて、木村君は、就活や実験の苦難があったと思

いますが、修士の2年間、実験系のサブリーダーとして、周囲に気を使いながら頑張ってくれました。就職しても、畜資での踏ん張りを糧に、ますます活躍してくれることと思います。

児嶋君は、大石先生と畜産資源の研究新分野を切り開いて、研究室をぐんぐん引っ張ってくれ



るリーダー的存在です。春からは、博士後期課程に進学し、研究室の中心となって、遺憾なく力を発揮してくれることでしょう。

修士論文発表会では、ほかの分野の修士学生の研究発表も聞くことができました。同じ応用動物系でも、普段なかなか聞くことができない研究内容を聞くのは、非常に面白いなと思いました。もちろん専門的な内容を理解することは難しかったのですが、研究目的に対するアプローチ方法など参考にするとところもあって、ゼミを訪問させてもらう機会があればいいな、と感じました。

(ようこ)



### 目次:

広岡先生の随筆 2  
◎口は災いの元

Life in Indonesia② 3

修論・卒論打ち上げ 3

節分祭 3

動物に名前をつける重 4  
要性

日尼サッカー大会 4

お知らせ 5

今年の冬季オリンピック(バンクーバー)は、だいぶ盛り上がりましたね。日本勢も話題盛りだくさんで、いろいろな種目に活躍してくれました。日本では、競技環境を整えるだけでも大変だと思うのですが、すばらしいことです。一方、韓国勢のスケート競技の強さには驚きました。フィギュアだけでなくスピードもショートトラックもメダルをさらっていきましました。メダリストには、報奨金やら年金支給もあるそうで、モチベーションも違うのでしょうか…?日本人は、いいところ次回オリンピックの解説者ですもんね~(^\_^)

## 卒業論文ポスター発表会

2月16日に農学部資源生物科学科の卒業論文ポスター発表会がありました。会場の農学部大会議室には、およそ40のポスターが掲示され、発表者は自分のポスターの横に立って、質問を受け付けました。畜産資源学分野からは、荒木さん、石田君、木村(悠)君、中川(靖)君が、畜資恒例のスーツ姿で

それぞれの研究成果を発表しました。ほかの分野の先生方や院生からも、多くの質問が寄せられ、担当時間を



オーバーしてまで熱心に質問に答えたり、研究にかかわった院生と一緒に答えたりする姿も見受けられました。4



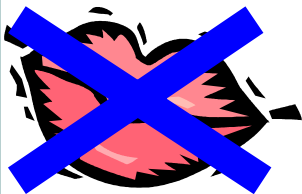
年生は、春から大学院へ進学。輝かしい研究生生活を送ってくれと期待しています☆

(ようこ)

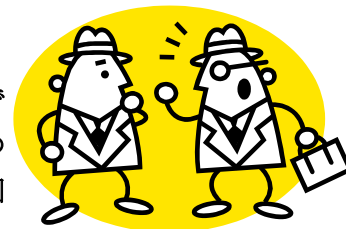


## 好評連載 広岡先生の随筆

### ⑫口は災いの元



このところ政治家の失言がよく取りざたされるが、私も負けず劣らず失言が多いようである。何気なく私が言った言葉に、学生が傷つくこともあるそうである。この点については私も反省すべき点が多いのだろうが、あえて弁明させてもらえれば、十分意図を汲み取ってほしいと思うこともある。



以前私が学生だった頃、恩師の山田行雄先生を大いに怒らせたことがある。どのような文脈で言ったことなのか忘れてしまったが、山田先生に「先生はころんでもただでは起きませんね」と言ったことがある。それに対して先生は、「何てことを言うのだ」とひどく叱られた。後にいろいろな人にこの話をする度に「お前がおかしい」と言われる。が、私の考えでは「ころんでもただでは起きない」ことは悪いことではなく、純粋に贅辞の意味も込めて言ったのである。失敗をしたときにそのまま落ち込んでしまうよりも失敗してもそのことをバネになにかをすることが私のモットーである。「ただで起きる」よりも、その失敗に意味を持たせて、よりよい方向に持って行く、そのような姿勢を常に持っていたいと私はいつも思っている。さらに言えば、面と向かって、大先生に悪口を言う訳がない。

英語がうまく書けずに悩んでいる学生に、「ネイティブの英語を真似たさい」とアドバイスすることになっている。ところが、学生の一人がどうしてもうまく真似てこないで、「どうして真似られないのか」と尋ねると、彼にとっては「真似る」というと盗作するのように感じ、悪いことをしているようで、なかなか私の指示に従えなかったそうである（あえて誤解を受けると困るので言っておくと、ここで言う、真似るは、文体あるいは表現法を真似るの意味である）。このような学生の反応は、ある意味、私にとっては大いにびっくりさせられることであつた。私は、いかなる芸の道も学問の道も初学者が真似るのは当然のことと考えてきたが、人によっては、言葉の持つ本来の意味にこだわるあまり、本意が伝わらないこともあるようである。確かに、同じことを言われても、その人が持つそれまでの経験、考え方、生き方、人間関係などによって、言われた言葉に対する感じ方はさまざまなようである。それゆえ、時として、私の何気ない言葉が大変な誤解を受けることがある。

現在、多くの人々は、他人との関係を気にするあまり、議論さえしなくなっている。特に若者の間ではその傾向は顕著であるように思われる。しかし、私はあえて誤解を恐れずに、今後も言うべきことは言っていこうと思う。そうすることで、はじめて信頼関係が生まれるものであるし、実のある議論も可能になる。直面する問題に、真っ直ぐに取り組み、自分の意見を正直に言うならば、人は、必ず分かっているものと信じているし、信じたいと願っている。

広岡博之

## Life in Indonesia ②

The cuisine of the Padang is commonly called *Padang* cuisine, due to it being the capital and largest city of the region. Padang restaurants are common throughout the country and are famous for their spicy food and their unique way of serving it. Padang food is usually cooked once per day, and all customers choose from those dishes. It is served in small portions of various dishes, but constituting, with rice, a complete meal. In a Padang-style restaurant, the table will quickly be set with dozens of small dishes filled with highly-flavored foods such as curried fish, stewed green, chili eggplant, fried chicken, and of course, sambal (the spicy sauce from chili). Almost of the people eat the dishes with their hands. The best known Padang dish is *rendang* (spicy beef meat curry). *Soto Padang* (crispy beef in spicy soup), *Sate made from beef satay* with curry sauce serve with *ketupat* (dumplings rice), and many others.



Soto Padang

(Cici)

## 修論・卒論打ち上げ

2月17日に卒業・修士論文発表の打ち上げを研究室で行いました。去年のクリスマスに畜産資源OGの上原幸さんに亀岡牛を頂いていたので(あざーす！)、すき焼きをすることにしました。広岡先生の珍しくごちなかつた挨拶を皮切りに、今まで実験や発表論文の準備で忙しかったみんなも大いに盛り上がりました。青森出身の加藤くんが推薦したすき焼きに入れた大根が思った以上に好評で、あっという間になくなりました。皆さんも是非、試してみたいはいかがでしょうか。

いつもよりも大人しい飲み会だなあと周りを見ると、飲み会大好き塚原さんと美味いもん好きの西尾さんが欠席していました。2人



は用事があり、参加できなかったとのことでした。残念。

広岡先生が「線香花火は関東と関西で違うことは知っているかい。」と、どこかのテレビ番組での情報をみんなに聞いていました。関西では藁で作るのに対し、関東では紙綴りで作った線香花火が出回っていることを言いたかったのですが、残念ながら学生のほとんどは藁の線香花火を知らなかったようです。

4回生、修士2回生の皆さんお疲れ様でした。来年は私も修士論文の発表をする予定



です。線香花火ではありませんが有終の美を飾るべく精進したいと思います。

(酒井)

## 節分祭

今年、吉田神社の節分祭に行ってきました！京都にかれこれ8年間いますが、節分祭に行くのは初めてでした。研究室でも行ったことがあるかどうか聞いてみると意外にも、僕と同じように、京都で何年か住んでいても行ったことがない人が多いみたいです。吉田神社が節分の本家ということもあり、神社に向かう道にはたくさんの露天が軒を連ねていました。せっかく来たのだから、と鮎やお酒を買って祭りの雰囲気を楽しみました。食べ物以外でも、神社の中ではおみくじが豆と共に売られており、節分祭の2,3日後にはおみくじの抽選結果と



景品がホームページ上に掲載されていました。一応、おみくじを買って見たのですが見事にはずれました…。おみくじは200円だったので、たいした景品などないと考えていたのですが、ホームページを見てみると1等の車から始まり、ホテルの宿泊券、商品券などかなりの豪華商品が当たるようです。最後に研究室の皆にお土産にと、「龍鬚飴」という聞き慣れないお菓子を買いました。これは実演販売で、目の前で店主が一本の飴を14回伸ばすことで $2^{14}$ (16,384)本もの極細の飴にし、それを丸めてお菓子にするというものでした。食べてみると飴なのにふわっとした不思議な食感でした。個人的に、節分祭ではいろいろ楽しむものがあつたので、また行きたいと思いました。もし、行ったことがない人がいれば、来年以降行ってみたいはいかがでしょうか？

(記者N)



## 動物に名前を付ける重要性

ナマステ！

畜産資源ネパール班の酒井です。

奇想天外で人をうならせる研究を表彰するイグ・ノーベル賞、たまごっちやパウリンガルの受賞でご存知の方も多と思います。去年度(2009年度)の獣医学賞にはイギリスのニューカッスル大学のキャサリン・ダグラス博士とピーター・ロリンソン博士の共同開発「名前をつけられた牛は、名無しの牛よりもたくさんの牛乳を出す研究」に贈られました。畜産の研究をしている私にとってはとても興味深い内容です。

私が前回のネパール滞在で6頭水牛を使って餌の嗜好試験を行っていたときの話です。私は普段から動物を扱うときに友情を深める意味も込めて名前を付けていくことにしています。今回も同じように水牛に名前を付けていきました。

最初は外見の特徴(角、耳など)で名前を決めていきます。

ミアレ(耳が荒れているため)

民生(角が1本→ユニコーン→たみお)

十兵衛(片方の目が閉じかけているため)

3頭分の名前は決まったのですが水牛を普段から見慣れていないこともあり、残り3頭で1時間ぐらい悩みました。

その結果、

ち～ちゃん(手伝ってくれた荒木が自分のあだ名を命名、きれいな顔立ちをしているからとのこと)

マッドマックス(悪そうな顔をしているため)

ハジュール☆ひろし(一番特徴がなかったため目立つ名前を付けました)

嗜好試験も半ばに差し掛かったころ、牧場で水牛の大脱走劇がありました。全頭捕まえたのですが試験に使用していた水牛が他の水牛と混じてしまい、現場の技官さんたちも仕分けに苦労していました。そこで、私たちは名付けた名前をもとに水牛を見ていくことにしました。すると、ハジュール☆ひろしだけは時間がかかりましたが、すぐに全頭仕分けすることに成功。現場の技官さんたちもビックリしていました。まさかこんな状況で名前が役に立つとは思いませんでした。次回は泌乳試験を行います。この勢いでたくさんの水牛乳を出して欲しいものです。

(酒井)



マッドマックス



ハジュール☆ひろし

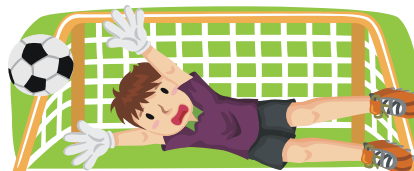


## 日尼サッカー大会

2月13日(土)、研究室の留学生イクバルさんとその仲間たちを迎え、農学部グラウンド脇でサッカー大会を行いました。最近、畜産資源では、日頃の運動不足でなまった体にムチを入れるため、週1回お昼にサッカーをするのが恒例です。今回はそのサッカーの練習成果を出す絶好の機会でした。参加者は畜産資源から児嶋君、酒井君、石田君、塚原さん、西尾、イクバルさんの6人で、イクバルさんのインドネシア仲間は10人ぐらいでした。チーム編成はとりあえず、畜産資源メンバーにインドネシア人2人を加えた日本チーム、残りのインドネシア人で固めたインドネシアチームとなりました。インドネシアチームは平均年齢が明らかにこちらよりも高いのですが、意外に運動量が多く、なかには裸足や靴下でプレーするなど、なかなか手ごわかったです。

しかし、日本チームはエースのイクバルさんのダブルハットトリックにより、終わってみれば13対5と圧勝でした。開始時刻が13時だったのにも関わらず、終了時刻は15時で、なんと2時間もプレーしていました(休憩時間10分)。そのため、さすがにヘトヘトでその日一日は体が使い物にならなくなりました…。いつもは研究室のメンバーだけでサッカーをしていたので、いつもと違うメンバーを交えて試合をするのは新鮮でした。また、研究室以外のメンバーを相手に試合をしてみたいですね。

(記者N)



Department of Animal Husbandry Resources, Kyoto University, Faculty of Agriculture Oiwakekyo, Kitashirakawa, Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365  
FAX 075(753)6365  
http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。

E-mail: [yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp)

## お知らせ

### 今月のゼミ

日本畜産学会の発表練習を3月24日(水) 10:30よりE103教室にて行います。ゼミ係

### はくび会

はくび会総会・卒業生送別会を下記の通り開催します。  
日時 3/24(水) 14時～、場所: E-103  
議題 (1) 本年度の事業・予算の報告 (2) 来年度の事業計画の提案 (3) 新役員および庶務幹事の発表  
はくび会副会長

### 研究室の動向

2月23日から熊谷先生と酒井君(M1)が、3月1日から荒木さん(B4)がネパールへ研究出張に出かけました。酒井君と荒木さんは3月23日に帰国予定です。3月2～8日に広岡先生、熊谷先生、大石先生が中国へ出張へ出かけられます。3月15日から19日まで塚原さんが福島へ出張します。3月27～30日まで明治大学駿河台キャンパスにおいて、日本畜産学会112回大会が開催されます。畜資からは、学会・研究会を含め6名の学生が発表する予定です。

### 海外渡航手続きについて

学部生・院生が海外渡航をする場合には、私的・公的にかかわらず、農学研究科への届出が必要です。詳しくは、農学研究科のHP <<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/j/modules/tinycontent3/index.php?id=17>>「留学・国際交流について」のページを参照してください。

# 2010年 3月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
2/28	1	2	3 イクバル・加藤 体重測定Ⓞ	4	5	6
7	8	9	10 竹内・木村(悠) 体重測定Ⓞ	11	12	13
14	15	16	17 兒嶋・木村(知)・ 石田、体重測定Ⓞ	18	19	20
21 春分の日	22 振替休日	23	24 スリタヤニ・柳 体重測定Ⓞ	25	26	27
28	29	30	31 荒木・中川(靖) 体重測定Ⓞ	3/1	2	3

**編集後記** 先日「叱る」ということについて話す機会がありました。褒めることは簡単ですが、叱ることは難しいものですし、叱り手には、それ相当の器量が求められます。親身になっての叱りは、畏敬の念を生みますが、一方的な叱りつけは、嘲笑や悲劇を生み兼ねないので注意が必要です。一方、叱られる側は、叱り手が周囲にいることを恵まれた環境だと知ることでも重要です。叱られて、初めて気付くことや学ぶことはとても多く、人間として成長できるチャンスでもあります。歳を取ると、だんだん叱ってくれる人が少なくなって不安になります(^\_^;)